

地域日本語教育スタートアッププログラム1年目(後期)の取り組み

日本語教室運営チーム(橋本市) 近藤朋美

来年度からの日本語教室開催に向けた準備として今年度前期のヒアリング調査に基づき、後期は次の課題に取り組んだ。

〈課題〉

- ① やさしい日本語の普及と多文化共生への理解促進及び教室立ち上げの動きの周知
- ② 日本語学習サポーター育成
- ③ 来年度以降の日本語教室につながるプレ教室開催

〈課題別実践報告〉

課題①やさしい日本語の普及と多文化共生への理解促進及び教室立ち上げの動きの周知

(実践) やさしい日本語講座開催(公民館4か所) → 累計参加者数100名

(成果) 公民館4か所で実施し、累計100名の参加があった。公民館で開催することにより、外国人支援や日本語教育に全く関心のなかった方にも関心を持ってもらえ、地域での多文化共生を考えるきっかけとなった。講座内で日本語教室立ち上げの取り組みを紹介し、それをきっかけに日本語学習サポーター育成研修に参加した方が10名となった。

課題②日本語学習サポーター育成

(実践) 日本語学習サポーター育成研修全4回開催 → 定員30名、申込者30名、受講証明書授与26名

第1回: 地域日本語教室の役割

第2回: 日本語学習支援の基本①

第3回: 日本語学習支援の基本②

第4回: 外国人と一緒にできる教室活動を考える

(成果) 当市で目指す日本語教室の理念、コンセプトを提示、教室イメージを参加者と共有し、教室愛称を募集した。16件の応募があり、その中から「はしもっと日本語」に決定した。

研修終了後、今後の教室活動への参加希望アンケートを実施したところ、35%が「参加する」、65%が「興味あり」と回答し、「参加できない」は0%であった。

外国人ゲストとして研修に協力してくれた在住歴の長い外国人から「教室活動にぜひ協力したい。」という声があり、外国人サポーターとしての教室参加やさらには運営に関わってもらうことも期待できる。このことは、大きな成果であったと考える。

日本語教師養成講座420時間修了者等、日本語教育に関する知識を有する方4名とつながった。

課題③来年度以降の日本語教室につながるプレ教室開催

(実践)プレ教室を1月に交流会として開催→参加者:外国人5名 日本人13名

(成果)成果としては、「ゼロ初級者の参加があったこと」「参加した外国人から楽しかった、ありがとう」との感想を得たこと」「市議員3名の参加があったこと」が挙げられる。

しかし、課題は多い。参加対象者を外国人はヒアリング調査で訪問した企業の外国人従業員、日本人はサポーター育成研修受講者としたが、対象企業の外国人からの参加申し込みは1名だった。その要因としては「周知期間が年末年始の休業期間と重なり、開催周知が難しかったこと」「外国人が集住している地域から開催場所へのアクセスが悪かったこと」「ヒアリングで訪問した企業とその後連携が取れていなかったため、十分な協力が得られなかったこと」「初めての日本語教室交流会で個別申し込みはハードルが高かったこと」が挙げられる。教室開催の決定は日時、場所、周知方法、申込方法やアクセス、参加人数の確保など慎重に検討して行き、企業との連携は意見交換の場を持つなど継続的に行うようにしていきたい。

〈コーディネーターとして大切にしたいこと〉

日本語教室立ち上げと同時に一般市民向けにやさしい日本語普及活動をするにより、多文化共生への理解者を増やし、相手に配慮したやさしい日本語を話せる地域住民を増やし、学習者が学んだ日本語を教室内だけでなく、地域ですぐに使える環境作りが必要だと考える。そして、外国人住民が地域でいきいきと暮らすための仕掛けを教室の日本語学習サポーターとともに作っていく。その中で私たち日本人も多くの学びがあると思う。市民コーディネーターで、地元での活動である点を活かし、日本語教室が、日本人も外国人もなく、一緒にまちづくりをする仲間の活動拠点となるようにしたい。

〈今年度の取り組みの成果と今後の展望〉

今年度の大きな成果は、教室理念、教室コンセプトを掲げ、サポーターに共有したことだ。

来年度は、この理念に基づき具体的なカリキュラムを作り、定期的に教室を開催する。

橋本市日本語教室「はしもっと日本語」

教室理念:日本人と外国人がお互いを尊重し共にいきいきと暮らすための学び合いの場とする

教室コンセプト:話して 笑って つながる教室

スタートアッププログラム終了後も安定した教室開催を維持するための予算確保や運営体制の構築が2年目、3年目の大きな課題となる。行政の関係諸機関や企業、県とも連携を深め、進めていきたい。